**脳卒中と脳血管障害**

1. **脳卒中と脳血管障害の言葉の違い**

「卒中」という言葉は、紀元前から存在し、卒中風の略語で、外より襲う邪風に中（あた）って卒然と倒れることを意味しており、予期せぬ「急性発作」を表しています。一方、より広く用いられている脳血管障害という言葉は脳や心血管系の病変に起因する脳血流異常によって、もたらされるさまざまな病態や疾患を包括しています。

脳卒中は、脳血管障害の一つの臨床的な症候群であり、確かに予期せぬ発作として急に襲いかかってきますが、今日の医学医療の発展に伴い、早期発見で予防や治療も可能になってきました。従来の脳卒中医療連携は「倒れた→急性期→回復期→在宅」の一方向性のリハビリテーションのように解説されていますが、前段階としての無症候性脳血管障害や脳血管障害ハイリスクを持っている患者は多く、加えて発作後の再発予防や合併症の予防や治療もとても重要で、その診療や生活指導を包括的に、地域全体で連携して行い、健康寿命を延ばしていく必要があります。福岡市医師会方式では「脳卒中」にとどまらず、「脳血管障害」の医療連携を目指しています。



* **高血圧**
* **心房細動**
* **糖尿病**
* **慢性腎臓病**
* **脂質異常症**
* **喫煙・飲酒**
* **肥満**

**メタボリックシンドローム**

**睡眠時無呼吸症候群**

**リハビリテーション**

**生活の質の向上**

**満足できる看護介護**

**就労支援**

脳卒中後遺症

**無症候性脳梗塞・脳出血**

**未破裂脳動脈瘤**

**未破裂脳動静脈奇形**

**頸動脈・脳動脈狭窄**

**脳血管性認知障害**

**全身疾患に伴う脳血管障害**

脳血管障害

ハイリスク因子

３

脳血管障害

**急性発作・救急患者**

**脳梗塞・TIA**

**脳出血**

**くも膜下出血**

脳卒中

**脳卒中治療ガイドライン、2021**